



1 はじめに

本校は、県南部に位置し、生徒数約760名の大規模校です。総社市では、平成22年度から不登校未然防止の取組として「だれもが行きたくなる学校づくり」、通称「だれ行き」という研修プログラムを実施しています。この取組により本校では、「教員の指導力」と「生徒の人間関係・社会形成力」が向上し、落ち着いた学習環境がつくられています。

2 取組の概要

(1) だれ行き取組

学年・時期に応じた手作りプログラムによるSEL（社会性と情動の学習）を行うことでコミュニケーションスキル等を向上させ、それをベースにした協同学習を各教科で実践しています。

また、体育会での長縄跳びの



個人思考後の、グループ思考（協同学習）

コツや宿泊研修の楽しみ方を上級生が1年生へ、中学校生活の紹介を1年生が小学校6年生へなど、異年齢間のピア・サポート活動を積極的にを行い、対人関係スキルを伸ばしています。

さらに、先手必勝の生徒指導を目指し、「Good Behaviorチケット」の取組を行っています。良い行動に対し肯定的な介入をすることで、生徒

の自己肯定感が高まるだけでなく、保護者への情報提供を可視化できるので、教職員と保護者の信頼関係を築くことにも効果的でした。現在は、生徒間のGBカードの取組も行っており、困っている友達に自然に優しい声かけができるなど、支持的風土が醸成されています。

(2) 「いえべんの取組」

本校では、家庭での自主学習を「いえべん」と称して、ノート1日1ページ以上を目標に提出するようにしています。全クラス共通で5教科を順に回し、忘れた生徒は居残り勉強をします。居残り勉強はベナルティ感が出ないよう、学習方法や分からない問題を丁寧に教えるなど、教育相談的な要素を大切にしています。

(3) 学区の4小学校との連携

(一貫WEST)

学区内の4小学校との連携活動の一つに、自主学習ノート（本校ではいえべんノート）の継続使用があります。ノート1冊終了ごとに自主学習チャレンジカードを配布して、カードが5枚たまると表彰する取組です。

3 おわりに

ここ数年間で、学校環境適応感尺度（アセス）の教師サポートや友人サポートの数値が上昇し、それに比例するように全国学力・学習状況調査結果も向上しました。

SEL、協同学習、ピア・サポート、PBIS（ポジティブな行動介入と支援）の4部会を校務分掌に位置づけ、全教員が所属し、役割を自覚して積極的な生徒指導に取り組んできたことが、この成果につながったと考えます。今後も全教職員がベクトルを合わせ、特色ある学校教育を推進したいと思えます。

（教頭 平井宏之）



自主学習チャレンジカードと証明書